SONY

4-187-901-03(1)

地上・BS・110度CSデジタルハイビジョン

液晶テレビ

取扱説明書

設置する

接続する

初期設定をする

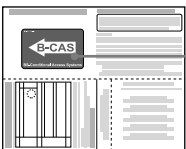
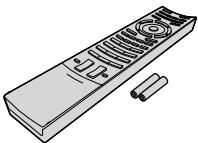
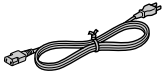
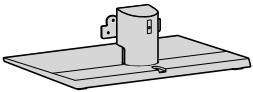
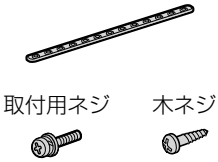
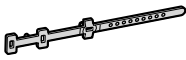
テレビを見る

困ったときは

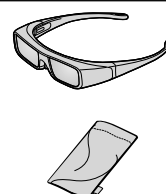
その他

操作のしかたは、
テレビ本体に搭載されている
電子取扱説明書「i-マニュアル」
をご覧ください。

BRAVIA

KDL-60LX900 / 52LX900 / 46LX900 / 40LX900

付属品を確かめる

付属品一覧

付属品	図
• B-CASカード（デジタル放送用ICカード）（1枚）台紙に貼り付けてあります。	B-CAS カード
• リモコン（1個） • 単4形乾電池（2個）	
• 電源コード（1本）	
• スタンド（1個）*1、*2	
• スタンド組み立て用ネジ（M5×16mm）（4本）*2、*3	
• 本体固定用ネジ（M5×16mm）（4本）*1	
• ボトムカバー（1個）*4	
• 転倒防止用ベルト（1本） • 取付用ネジ（＋PSW M4×20mm）（1本） • 木ネジ（M3.8×20mm）（1本）	取付用ネジ　木ネジ
• ワイヤークランパー（1本）*1	
• スペーサー（黒色）（4個）*1、*5 • スペーサー（銀色）（4個）*5 • マウンティングフック/フロアスタンド取付用ネジ（M6×20mm）（4本）*5	
• 3Dメガネ（電池入り）（2個） • ポーチ（2個）	

*1 KDL-52LX900/KDL-46LX900/KDL-40LX900のみ付属。

*2 KDL-40LX900のスタンドは組み立てる必要があります。詳しくは、別紙のスタンド取付手順書をご覧ください。

*3 KDL-40LX900のみ付属。

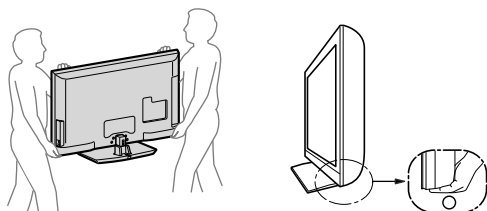
*4 KDL-60LX900は本機に付いています。

*5 別売りの壁掛けユニットやフロアスタンドの取り付けに必要になります。大切に保管してください。取り付けるときは☞22ページをご覧ください。

本書では特に記載がない限り、KDL-40LX900のイラストを使用しています。

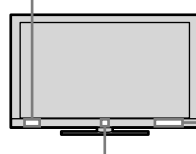
本機の持ち運びかた

正しい方法で運搬/移動する

誤った方法で運搬したり移動したりすると、本機が落下し、打撲や骨折をしたり、大けがをすることがあります。
大型テレビは重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行ってください。
テレビの底面を持つときは、イラストのようにしっかりと持ってください。
運ぶときには、衝撃を与えないようにしてください。落下や破損などにより、大けがの原因となります。
特に、液晶画面を押さえたり、強い力が加わるような持ちかたをしないでください。
本機を運ぶときは、本機に接続されている電源プラグやケーブルなどをすべてはずしてください。電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
修理や引越しなどで本機を運ぶ場合は、お買い上げ時に本機が入っていた箱と、クッション材を使ってください。

設置のご注意

- 液晶画面を照明や太陽にむけたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。屋外や窓際には置かないでください。
- 本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときや、湿気の多い場所や暖房を入れたばかりの部屋などでは、機器表面や内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。
  結露が起きたときは、本機の電源を切り、結露がなくなるまで放置してからご使用ください。ガラスパネルと液晶画面の間に結露が起きた場合は、本機の電源を入れ、結露がなくなるまで放置してください。

ご注意

- 本機の前に物を置かないでください。

- インテリジェント人感センサーに直射日光や強い光が当たらないように設置してください。故障の原因になります。

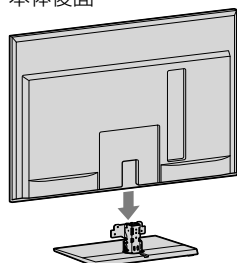
スタンドを取り付ける

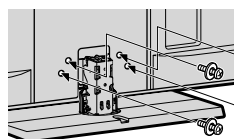
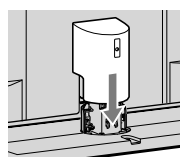
スタンド取り付けが必要な機種
KDL-52LX900/KDL-46LX900/KDL-40LX900

取り付ける前に、付属のネジに合ったドライバーをご用意ください。
KDL-40LX900の場合は、別紙のスタンド取付手順書をご覧になり、あらかじめスタンドを組み立ててください。

1 本体をスタンド(付属)に載せる。

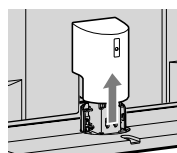
必ず2人以上で行ってください。
片方の手で底面を持ち、もう片方の手で本体上部を支えてください。

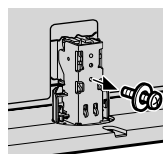
本体後面

2 ⬆の位置で本体固定用ネジ(付属)を締め、スタンドを固定する。

電動ドライバーを使う場合、締め付けトルクは約1.5N･m {15kgf･cm} に設定してください。

3 スタンド後面カバー(付属)を取り付ける。

見やすい角度に調節する[チルト]

画面の角度を調節できる機種
KDL-52LX900/KDL-46LX900/KDL-40LX900

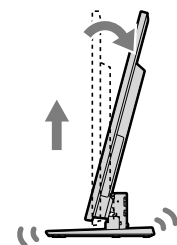
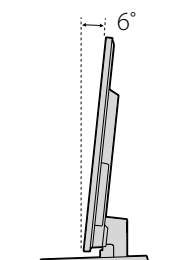
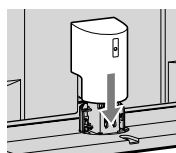
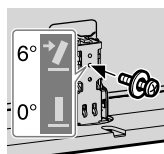
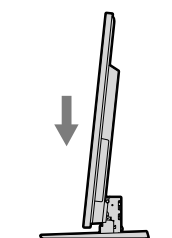
ご注意

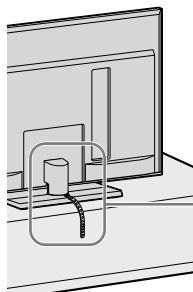
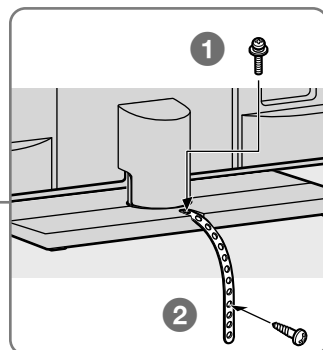
- 本体とスタンドの間に手や指をはさまないように動かしてください。また、壁などにぶつからないようにしてください。
- 液晶画面には触れないでください。

❶ スタンド後面カバーをはずす。

本機後面

❻ スタンド後面カバーを取り付ける。

❷ スタンドのネジをはずす。

❺ 6°の位置でネジを締める。

❸ 本機を持ち上げ、角度を変える。

本機右側面

❹ 本機をおろす。

ちょっと一言

- 0°に戻すときは、逆の手順を行ってください。
- KDL-52LX900/KDL-46LX900/KDL-40LX900は画面の向きを左右に調節できます。詳しくは、i-マニュアルをご覧ください。

転倒防止の処置をする

1. 転倒防止用ベルト（付属）をスタンドに取付用ネジ（付属）でしっかりと留める。
2. テレビ台などに木ネジ（付属）などでしっかりと留める。

ご注意

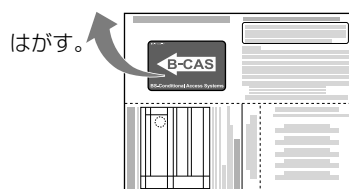
- 転倒防止の処置をしないと、本機が転倒し、けがの原因となることがあります。
- テレビ台の種類により、付属の木ネジが使用できないときや、強度が充分とれないときには、お買い上げ店や工事店にご相談のうえ、市販のネジ（直径3 ～ 4mm）をご使用ください。

B-CAS(ビーキャス)カードを入れる

B-CASカード(デジタル放送用ICカード)はお客様と地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタルの放送局をつなぐカードです。
デジタル放送を視聴するしないに関わらず、必ずB-CASカードを挿入してください。

次の手順は、電源を切った状態で行ってください。

1 同封の「ビーキャス(B-CAS)カード使用許諾契約約款」の内容を読み、了解されたうえで、台紙からB-CASカードをはがす。

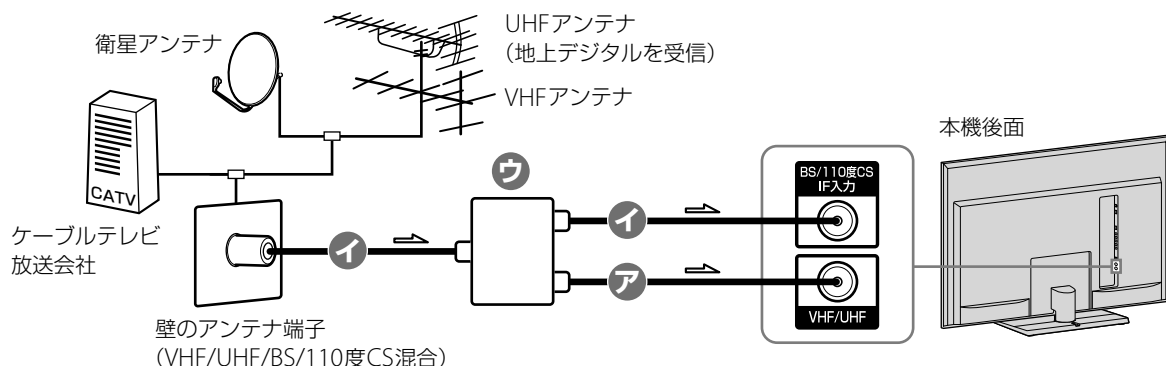
B-CASカードを貼ってある台紙の内容にご不明な点があるときは、B-CASカスタマーセンター(電話番号0570-000-250)へお問い合わせください。

2 B-CASカードを奥までしっかり挿入する。

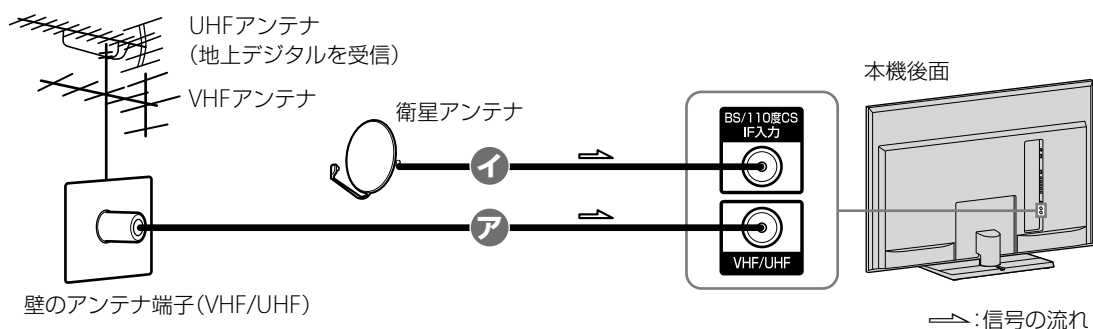
ご注意

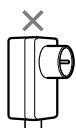
2004年4月から、番組の著作権保護のためにB-CASカードを利用しています。
B-CASカードを挿入しないと、すべてのデジタル放送を視聴できなくなります。

アンテナをつなぐ

録画機器の接続は、つなぐ機器の取扱説明書をご覧ください。

地上波と衛星放送の信号が混合の場合

地上波と衛星放送の信号が個別の場合

⇀：信号の流れ

ア VHF/UHF用同軸アンテナケーブル（別売り、EAC-DS15SS（2010年3月現在）など）

F接栓型 ○　プラスチック製 ×

イ 衛星用同軸ケーブル（別売り）

ウ 110度CSデジタルに対応したCS/BS/地上波放送対応分波器（別売り、EAC-DSSM2（2010年3月現在）など）

全端子電流通過型のCS/BS/地上波放送対応分配器（別売り、EAC-DSD12（2010年3月現在）など）もご使用できます。

ご注意

曲がると金属部分に触れ、ショートの原因となります。

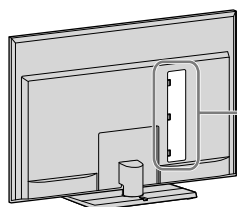
ちょっと一言

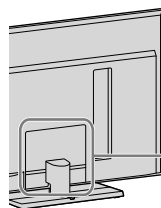
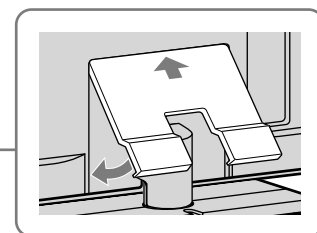
- 現在お使いのUHFアンテナやアンテナケーブルでも地上デジタルを受信できます。詳しくは、お買い上げ店にお問い合わせください。
- ケーブルテレビでも地上デジタルを受信・視聴できます。お住まいの地域のケーブルテレビで地上デジタルが放送開始されているかは、ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。ケーブルテレビ放送会社によって送信方式が異なりますが、本機は パススルー方式のすべての周波数に対応しています。
- 衛星アンテナをつなぐと、高画質・高音質で、各種テレビ放送・データ放送・ラジオ放送が楽しめます。
- BSデジタルの有料放送や110度CSデジタルは受信契約が別途必要です。

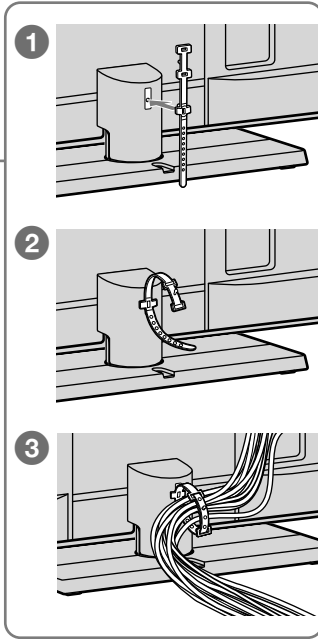
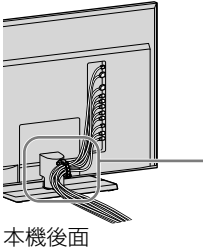
電源コードをつなぐ

1 電源コード（付属）を奥までしっかり差し込む。
2 フックに固定する。
3 コンセントの奥までしっかり差し込む。

ボトムカバーを取り付ける

ターミナルカバーのはずしかた

ちょっと一言

アンテナや機器をつないだあと、逆の手順でターミナルカバーを取り付けてください。

ケーブルをまとめる

ワイヤークランパー付属機種
KDL-52LX900/KDL-46LX900/KDL-40LX900

ご注意

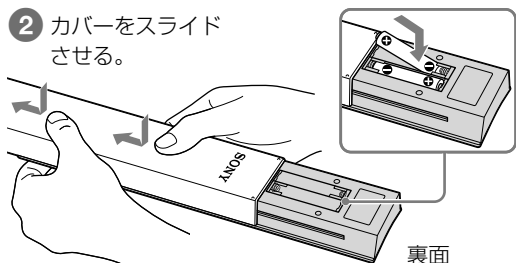
電源コードはまとめないでください。

ソフトウェアのダウンロードについて

本機を最新の状態に保つために、デジタル放送またはネットワークから最新情報をダウンロードして、ソフトウェアを書き換えます。電源コードが抜かれていたり、主電源スイッチで主電源を切ったりしたときは、ダウンロードは行われません。

ソフトウェアの書き換え中は、本機前面の⊠ ⏻ランプがオレンジ色に点滅します。電源コードを抜いたり、主電源スイッチで主電源を切ったりしないでください。ソフトウェアの書き換えが途中で終了し、誤動作を起こす場合があります。

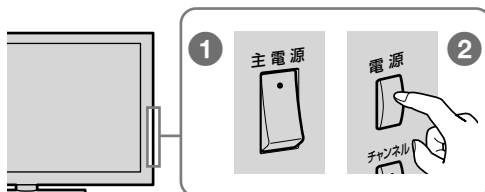
リモコンを準備する

リモコンに電池を入れる。

ご注意

カバーをスライドさせるときに、指などをはさまないようにご注意ください。

かんたん初期設定をする

地上アナログ、地上・BS・110度CSデジタルの受信設定は、「かんたん初期設定」で一度にできます。

1 電源を入れる。

本機右側面

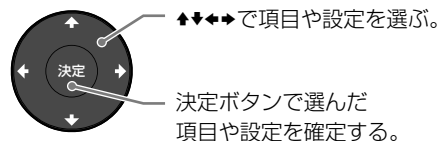
❶ 主電源スイッチが「入」(•)であることを確認する。
❷ 電源スイッチを1回押す。

ちょっと一言

画面右下に「展示モードを実行中です。」と表示された場合は、「かんたん初期設定」でご家庭での視聴環境になるよう設定してください。

2 画面のメッセージに従い、リモコンで設定する。

↑↓←→で項目や設定を選ぶ。

決定ボタンで選んだ項目や設定を確定する。

ご注意

リモコンを「かんたん初期設定」でテレビ本体に登録しなかった場合、必要によりあとで登録してください。
本体のホームボタンを押して、(設定)→(かんたん設定)→[マルチリモコン登録]の順に選び、リモコンを登録します。
うまく登録できないときは、本機前面のソニーマークにリモコンを近づけて登録操作をしてください。

リモコンボタンに希望のチャンネルを割り当てる

数字ボタンのチャンネルは自動で割り当てられるので、お好みのチャンネルと異なることがあります。その場合は手動で変更してください。
ホームボタンを押して、(設定)→(放送受信設定)→[デジタル放送受信設定]→[地上デジタル:プリセット登録]または[BS:プリセット登録]、[CS:プリセット登録]を選び、お好みのチャンネルに変更します。

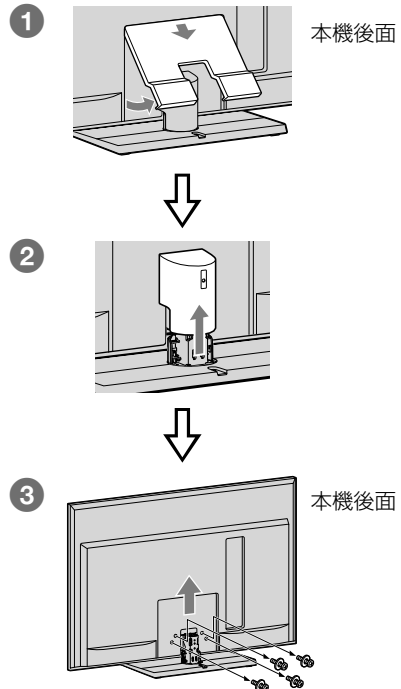
マンションなどの共同受信システムの設定をする

[BS·CS:衛星アンテナ設定]を[切]にしてください。
ホームボタンを押して、(設定)→(放送受信設定)→[アンテナ設定]→[BS·CS:衛星アンテナ設定]→[切]の順に選びます。

かんたん初期設定をあとでやり直す

引越しなどでお住まいの地域が変わったときや地上デジタル放送が開始されたときは、「かんたん初期設定」をやり直してください。
ホームボタンを押して、(設定)→(かんたん設定)→[かんたん初期設定]を選び、画面のメッセージに従って設定します。

スタンドのはずしかた

本機を壁に掛けるときや別売りのフロアスタンドなどを使うときは、スタンドをはずしてください。
ボトムカバーとスタンド後面カバーをはずしたあと、の位置の本体固定用ネジをはずしてください。

ご注意

- 取りはずしたスタンドのネジは、壁掛けユニットやフロアスタンドなどの取り付けに使用しないでください。
- 取りはずしたスタンドおよびネジは、大切に保管してください。スタンドに戻す場合に必要です。スタンドを個別に購入することはできません。

テレビを見る

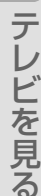
1 電源を入れる。

❶ 主電源スイッチが「入」(•)であることを確認する。
❷ 電源スイッチを1回押す。

2 見たい放送を選ぶ。

地上
アナログ　デジタル　BS　CS

従来の地上アナログ放送を引き続きご覧いただけます。

デジタル放送の高画質･高音質で多彩な番組をご覧いただけます。

3 チャンネルを選ぶ。

番組表から選ぶには
デジタル放送を視聴しながら、放送中および1時間以内の番組を表示できます。

10キー選局するには
10キーボタンを押したあと、数字ボタンでチャンネル番号を入力して、最後に12ボタンを押します。

- 011ch(デジタル放送)の場合：10キー →10 →1 →1 →12
- 37ch(アナログ放送)の場合：10キー →3 →7 →12

枝番が付いているチャンネルを選局するには
他の地域の放送も受信できる場合、重複するチャンネル番号を区別するために、補助的な番号(枝番)が付いています(地上デジタルのみ)。

- 0112chの場合：10キー →10 →1 →1 →11 →2 →12

2つのボタンで本機を使いこなそう

☞14、15ページをご覧ください。

ちょっと一言

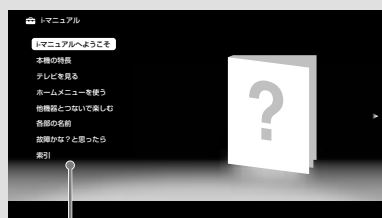
チャンネル＋ボタン、音声切換ボタン、再生ボタン、数字ボタンの「5」の上には、凸点(突起)が付いています。操作の目印として、お使いください。

i-マニュアルを使う

本機は、テレビ本体に電子取扱説明書「i-マニュアル」を搭載しています。必要なときにリモコンのi-マニュアルボタンを押せば、画面ですぐに見ることができます。

1 i-マニュアルを表示する。

i-マニュアル
?

2 ↑↓← →で項目を選ぶ。

■ **i-マニュアルへようこそ**

■ **本機の特長**

■ **テレビを見る**

番組表や番組検索など、便利な機能を知ることができます。

■ **ホームメニューを使う**

設定など、ホームメニューのさまざまな機能を知ることができます（☞14ページ）。

■ **他機器とつないで楽しむ**

接続のしかたや、つないだ機器の楽しみかたを知ることができます。接続については、インターネットのホームページでも確認できます。
http://www.sony.jp/support/connect/guide/index.html

■ **各部の名前**

本機のボタンやリモコンの使いかたなどを知ることができます。

■ **故障かな？と思ったら**

困ったときの解決法を知ることができます。インターネットのホームページでもよくあるお問い合わせ「Q&A」を紹介しています。
http://www.sony.co.jp/faq/bravia/

■ **索引**

画面上のマークについて

💡：本機をさらに便利に使いこなすための情報や操作のヒントなどが書かれています。

✍：本機を操作するときに気をつけることが書かれています。

ご注意

イメージ/イラストは実際の表示と異なる場合があります。

ホームメニューを使いこなす

ホームメニューを表示させ、さまざまな機能を使うことができます。

1 ホーム を押す。

かんたん設定
放送を見るための初期設定などをします。

カテゴリー内の項目

2 ←→を押して、カテゴリーを選ぶ。

3 ↑↓を押して項目を選んで、決定を押す。

ホームメニューの項目は、下記のように配置されています。

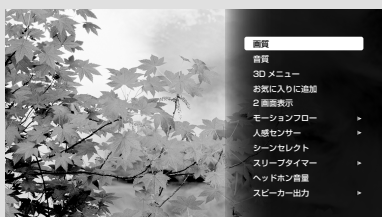
ご注意

お使いの状況により、表示されるアイコンは異なります。

ちょっと一言

設定の詳細項目については、☞16ページをご覧ください。

オプションメニューを使うには

オプションボタンを押すと、そのとき使える機能が表示されます。↑↓を押して項目を選び、決定を押してください。

地上
- 番組表・検索
- 地上アナログch
- 地上デジタルテレビch
- 地上デジタルデータch

BS
- 番組表・検索
- BSテレビch
- BSラジオch
- BSデータch

CS
- 番組表・検索
- CSテレビch
- CSラジオch
- CSデータch

外部入力
- レコーダー 1 CTRL：HDMI
- プレーヤー 1 CTRL：HDMI
- チューナー 1 CTRL：HDMI
- HDMI1
- HDMI2
- HDMI3
- HDMI4
- ビデオ1
- ビデオ2
- コンポーネント
- PC

ネットワーク
- 〈ブラビア〉インターネットビデオの機能追加
- インターネットブラウザ
- アプリキャスト
- EdyViewer

設定項目一覧

設定のしかたは、i-マニュアルをご覧ください。

お知らせ

デジタル放送からのメール
本機からのメール
ボード(CSデジタル)
カード・受信機情報表示

製品サポート

i-マニュアル
お問い合わせ
自動ソフトウェアアップデート

かんたん設定

かんたん初期設定
マルチリモコン登録

画質・映像設定

- 画質
  - 設定対象
  - 画質モード
  - 標準に戻す
  - バックライト
  - ピクチャー
  - 明るさ
  - 色の濃さ
  - 色あい
  - 色温度
  - シャープネス
  - ノイズリダクション
  - MPEG ノイズリダクション
  - モーションフロー
  - シネマドライブ
  - 詳細設定
    - 標準に戻す
    - 黒補正
    - アドバンスト C.E.
    - ガンマ補正
    - オートライトリミッター
    - クリアホワイト
    - ライブカラー
    - 色温度調整
- 3D設定
- 画面モード(放送や外部入力の設定項目)
  - 設定対象
  - ワイド切換
  - オートワイド
  - 4:3映像
  - 自動表示領域切換
  - 表示領域
  - 画面位置調整
  - 縦サイズ
- 画面モード(PC入力/HDMI入力につないだパソコン画像の設定項目)
  - 自動画調整
  - 標準に戻す
  - フェーズ
  - ピッチ
  - 水平位置
  - 垂直位置
  - ワイド切換

音質・音声設定

- 音質
  - 設定対象
  - 音質モード
  - 標準に戻す
  - 高音
  - 低音
  - バランス
  - サラウンド
  - サウンドエンハンサー
  - 自動音量調整
  - 音量レベル
- スピーカー出力
- ヘッドホン使用時設定
- 音声外部出力設定
- 操作音
- 光音声出力設定

放送受信設定

アンテナ設定
- 地上デジタル:アンテナレベル
- BS:衛星アンテナレベル
- CS:衛星アンテナレベル
- 地上アナログ:アンテナレベル
- BS・CS:衛星アンテナ設定

デジタル放送受信設定
- デジタル共通:地域設定(県域)
- デジタル共通:地域設定(郵便番号)
- 地上デジタル:自動チャンネル設定
- 地上デジタル:プリセット登録
- 地上デジタル:チャンネル登録
- BS:プリセット登録
- BS:チャンネル登録
- CS:プリセット登録
- CS:チャンネル登録
- BS・CS:降雨対応放送受信

アナログ放送受信設定
- 地上アナログ:自動チャンネル設定
- 地上アナログ:チャンネル登録
- 地上アナログ:ホームメニュー表示

放送受信詳細設定
- チャンネル選局
- 地上デジタル:自動チャンネル変更
- 地上デジタル:受信状態
- 番組の継続視聴
- データ放送:セキュリティサイト自動接続
- データ放送:証明書のダウンロード確認
- データ放送:証明書のダウンロード

機能設定

シーンセレクト

省エネ設定
- 消費電力
- 人感センサー
- 消費電力レベルバー表示
- 明るさセンサー
- 無操作電源オフ
- PCパワーマネジメント

近すぎアラーム

視聴位置自動調整

視聴・インターネット制限設定
- 暗証番号設定
- 視聴年齢制限設定
- インターネットアクセス制限設定

タイマー
- 現在時刻設定
- オンタイマー
- スリープタイマー

表示設定
- お知らせタイトル
- 時計表示
- デジタル放送:字幕
- デジタル放送:文字スーパー
- デジタル放送:データ取得中表示

本体設定
- USBオートスタート
- ホームメニュー速度設定
- おすすめナビ
- 高速起動
- ロゴイルミネーション
- 個人情報初期化

外部入力設定

オートインプットスキップ設定

ビデオ2/コンポーネント選択

HDMI機器制御設定
- HDMI機器制御
- テレビ→HDMI機器電源連動
- HDMI機器→テレビ電源連動
- HDMI機器一覧
- リモコン操作ボタン設定
- 録画機器選択

通信設定

ネットワーク設定

内蔵無線LAN設定

インターネットコンテンツの更新

接続サーバー設定

接続サーバー診断

レンダラー設定
- レンダラー機能
- レンダラーアクセス制御設定
- レンダラー詳細設定

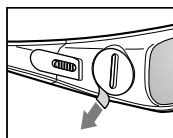
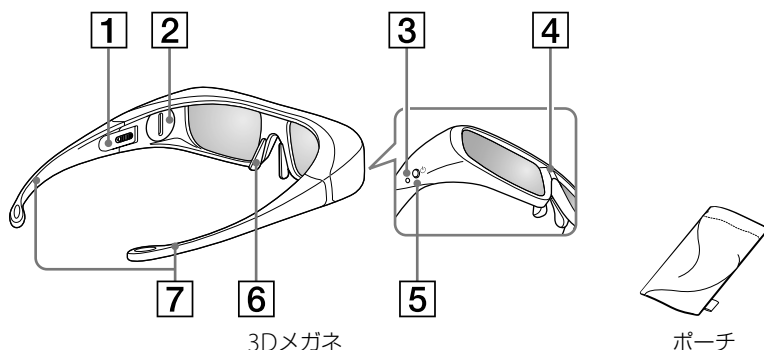
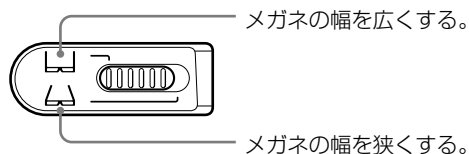
ご注意
- お使いの状況により、表示される項目は異なります。
- グレー表示の項目は選べません。

3Dメガネを使う

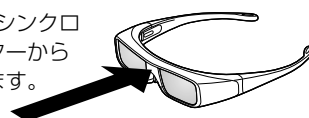
使用する前に

最初にご使用になる前に、電池の絶縁紙を取り除いてください。

各部の名前

3Dメガネ　　ポーチ

1 **スライドスイッチ**
掛け心地が良いところに合わせてスイッチを設定できます。
つるを少しだけ内側に折って、両側のスイッチを調節してください。

2 **電池カバー**
電池を交換するときは、カバーをはずしてください。

3 **LEDランプ**
3秒ごとに1回点滅する:電源が入っている状態です。
3秒ごとに3回点滅する:電池残量が少なくなっています。
3回点滅する:電源が切れます。

4 **赤外線センサー**
3Dシンクロトランスミッターから信号を受信します。

赤外線センサーの入射角は、距離や使用する環境によって異なります。

ご注意

赤外線センサーはきれいに保ってください。

5 **電源ボタン**
電源オン:1回押す
電源オフ:電源ボタンを2秒間押し続ける
* 自動電源オフ:5分以上無信号の場合

6 **ノーズパッド**
鼻の高さに合わせてノーズパッドを調節してください。

7 **つる**
つるを掛け心地の良い位置に曲げて調節できます。

電池の交換

電池残量が少なくなった場合は、電池を交換してください。電池はCR2032を使用してください。

ご注意

電池カバーを開け閉めするときは、硬貨などを電池カバーの溝にしっかり入れてください。

安全上のご注意

⚠注意

- 3Dメガネはソニーの指定機器で3D映像をご覧になる場合にのみお使いください。
- 3D映像の視聴中や3D立体視ゲームのプレイ中に目の疲労、疲れ、気分が悪くなるなどの不快な症状が出ることがあります。3D映像を視聴したり、3D立体視ゲームをプレイするときは、定期的に休憩をとることをおすすめします。必要な休憩の長さや頻度は個人によって異なりますので、ご自身でご判断ください。不快な症状が出たときは、回復するまで3D映像の視聴や3D立体視ゲームのプレイをやめ、必要に応じて医師にご相談ください。本機に接続する機器やソフトウェアの取扱説明書もあわせてご覧ください。最新情報については、ホームページ(http://www.sony.co.jp/support)をご覧ください。
  なお、お子様(特に6歳未満の子) の視覚は発達段階にあります。お子様が3D映像を視聴したり、3D立体視ゲームをプレイする前に、小児科や眼科の医師へご相談になることをおすすめします。大人のかたは、お子様が上記注意点を守るよう監督してください。
- 3Dメガネを落としたり改造したりしないでください。
- メガネのレンズが割れた際は、目や口に破片が入らないようにしてください。
- お子様が電池と電池カバーを飲み込むのを防ぐため、電池を交換するときはお子様を近づけないでください。もしお子様が電池または電池カバーを飲み込んでしまったときは、すぐに医師の診察を受けてください。
- 3Dメガネで使用した電池を火の中に廃棄しないでください。
- 電池を交換するときは、＋と－を正しい向きに入れてください。
- 指定の電池を使用してください。(リチウム/マンガン電池、CR2032)
- 大人の監視がない場合、お子様だけのご使用はなさらないでください。
- メガネのヒンジ(折りたたみ部)に指などをはさみこまれないようにご注意ください。
- 火のそばや直射日光のあたるところ·炎天下の車中などの高温の場所で、3Dメガネおよび電池を使用·保管·放置しないでください。

使用上のご注意

- 3Dメガネは3Dシンクロトランスミッターからの赤外線を受光して動きます。
  以下の場合に、正しく動作しないことがあります。
  – メガネが3Dシンクロトランスミッターの方向を向いていない場合。
  – 3Dシンクロトランスミッターとメガネの間に障害物がある場合。
  – 赤外線機器(照明機器、暖房機器、IR送受信器)が近くにある場合。
- 3Dメガネはテレビと水平な状態でご覧になってください。
- 横になったり顔を傾けたりすると、3D効果を感じにくくなったり映像の色が変わったりすることがあります。
- 環境保護の為、使用済みの電池の廃棄については地方自治体の条例または規則に従ってください。

メガネのお手入れ方法

- メガネはやわらかい布で優しく拭いてください。
- 汚れがひどいときは中性洗剤と温かいお湯を少々つけて湿らした布で拭き取ってください。
- 化学ぞうきんを使うときは、パッケージに記載されている指示に従ってください。
- シンナーやアルコールやベンジンのような化学薬品は使わないでください。

買い換えや追加購入について

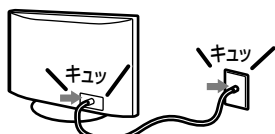
下記の3Dメガネをお買い求めください。(2010年3月現在の型名です。型名は変更されることがあります。)

- TDG-BR100
- TDG-BR50

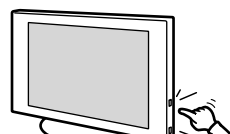
故障かな？と思ったら

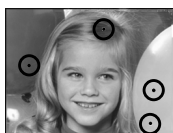
i-マニュアルの「故障かな？と思ったら」もあわせてご覧ください。
インターネットのホームページでもよくあるお問い合わせ「Q&A」を紹介しています。
http://www.sony.co.jp/faq/bravia/

まず確認してください

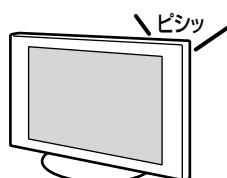
アンテナ線（VHF/UHF用同軸アンテナケーブル）をしっかりつなぐ。

- ゆるんだり、抜けたりしていないか。
- 芯線が曲がっていないか（☞7ページ）。

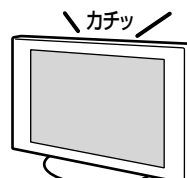
電源コードをしっかりつなぐ。

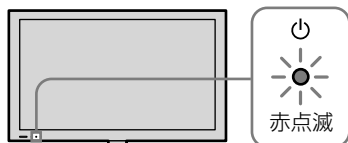
本体の主電源スイッチと電源スイッチを入れる。

こんな場合は故障ではありません

画面に光る点、または光らない点がある。

輝点・滅点

液晶テレビの映像は微細な画素の集合です。
画面の一部に画素欠けや輝点が存在する場合があります。

「ピシッ」というきしみ音が出る。

電源を入れているかどうかに関わらず、周囲との温度差でキャビネットが伸縮し、「ピシッ」という音が出ることがあります。

電源を入れたときや電源スタンバイ時に「カチッ」と音がする。

電源を入れたときは、内部の回路が働くため音がします。
また電源スタンバイ時は、データ受信やソフトウェアの書き換えのために本機の電源が自動的に入り、音がすることがあります。本機前面の⊠ ⏻ランプがオレンジ色に点滅しますが、故障ではありません。

自己診断表示機能が働いています

画面が消え、本機前面の⏻ランプが赤色に点滅する。
本機に何らかの異常が起きています。⏻ランプの点滅回数をご確認のうえ、ソニーご相談窓口にお問い合わせください。

症状	対処のしかた	参照ページ
本機の**電源が突然切れた**/いつのまにか消えていた。	• [無操作電源オフ]を設定していると自動的に電源が切れます。	17
	• [オンタイマー]を利用して電源を入れた場合、設定した視聴時間を経過すると、電源が切れます。	17
	• [人感センサー]を設定していると、一定の時間内に人の顔や動きを検知しなかったときは消画になります。さらに[自動電源オフ]を[入]に設定していると、消画になって30 分経過すると自動的に電源が切れます(電源スタンバイ)。消画になるまでの時間は設定によって異なります。ホームボタンを押して、(設定)→(機能設定)→[省エネ設定]→[人感センサー]の順に選び、確認してください。	
リモコンで**本機を操作できない。**	• 電池を交換してください。操作したときに、ふたの中のTVボタンまたは録画機器ボタンが点滅していたら、電池の電圧が不足していますので、電池の交換が必要です。	10
	• 電池の⊕⊖を正しい向きに入れてください。	10
	• 本体の主電源スイッチを「入」の状態にしてください。	12
	• 本機やリモコンを金属製のテーブルやラックなどに設置するとリモコンの無線通信に支障をきたし操作できないことがあります。	
	• 近くに電子レンジや無線装置があるときはリモコンで操作できないことがあります。	
	• リモコンをもう一度登録し直してください。	10
	• リモコン先端部を手などで覆わないようにして操作してください。	
	• リモコンは最後に登録した1台のテレビしか操作できません。	
	• ブラビアリンク対応機器の操作モードになっています。リンクメニューボタンを押して、[テレビの操作]→[ホーム(メニュー)]または[オプション]を選び、本機を操作してください。	
HDMI入力に切り換えるとリモコンで操作できない。	• リンクメニューに対応していないHDMI機器の可能性があります。[リモコン操作ボタン設定]を[標準]にしてください。 リンクメニューボタンを押して、[テレビの操作]→[ホーム(メニュー)]→(設定)→(外部入力設定)→[HDMI機器制御設定]→[リモコン操作ボタン設定]→[標準]の順に選びます。	
画像が**乱れる。**	• アンテナ線は電源コードからできるだけ離してください。	
	• これまでお使いのUHFアンテナを地上デジタル用に使用すると、受信エリア内であってもアンテナ設置状態、屋内配線状態でうまく映らなかったり、画面が乱れたりすることがあります。お買い上げ店などにお問い合わせください。	7
本機前面の **I ランプ**が緑色に点滅する。	• 衛星アンテナがショートしています。 (1) 電源スイッチを押して電源を切り、衛星用同軸ケーブルの芯線がBS/110度CS IF入力端子やケーブルのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。 (2) 電源スイッチを押して電源を入れてください。 (3) 「かんたん初期設定」の途中で I ランプが緑色に点滅した場合は、「かんたん初期設定」をやり直してください。 (4) 本機のチャンネルをBSデジタルまたは110度CSデジタルに切り換えたあと、[BS・CS:衛星アンテナ設定]を[オート]または[入]に設定してください。マンションなどの共同受信システムの場合は[切]に設定してください。そのときBS・110度CSデジタルが正常に受信できないときは、[オート]または[入]に設定してください。 (5) それでも I ランプが緑色に点滅するときは、電源コードを抜き、お買い上げ店またはソニーご相談窓口にお問い合わせください。	7 11
本機の周辺が**熱い。**	• 長時間使用したときなどに、本機の上部が熱くなり、手で触れると熱く感じることもあります。	

別売りアクセサリーを取り付ける

本機は以下の別売りアクセサリーに対応しています。

- 壁掛けユニット
  SU-WL500（2010年3月現在）：KDL-60LX900
  SU-WL700（2010年3月現在）：KDL-52LX900/KDL-46LX900/KDL-40LX900
- フロアスタンド
  SU-FL71M（2010年3月現在）：KDL-52LX900/KDL-46LX900/KDL-40LX900
  SU-FL71L（2010年3月現在）：KDL-60LX900/KDL-52LX900/KDL-46LX900/KDL-40LX900

壁掛けユニットは確実な取り付けが必要です。必ず専門業者に取り付けを依頼してください。本書とともにお使いの別売りアクセサリーの取扱説明書をよくお読みのうえ、確実な取り付けを行ってください。

SU-WL500を使う

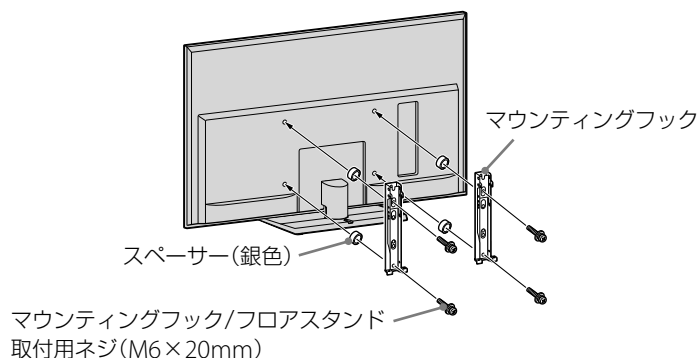
取り付け時に本機に付属の部品を使います。

- スペーサー（銀色）（4個）

- マウンティングフック/フロアスタンド取付用ネジ（M6×20mm）（4本）

下記もご覧ください。

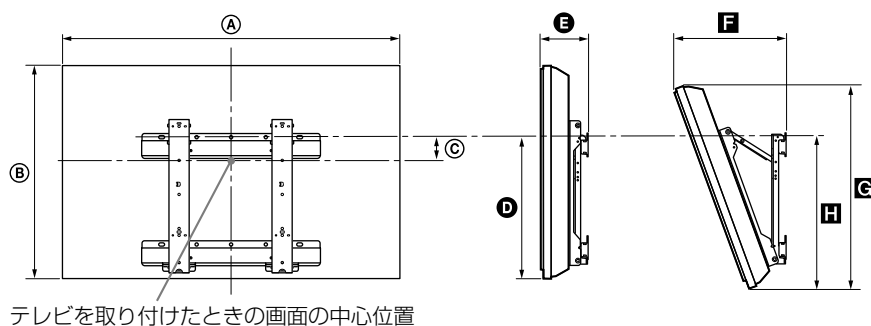
- 壁掛けユニットの取扱説明書
- 「スタンドを取り付ける」（☞3ページ）
- 「ターミナルカバーのはずしかた」（☞8ページ）
- 「スタンドのはずしかた」（☞11ページ）

テレビ本体を付属のスタンドの上に設置し、マウンティングフックを取り付けてください。

ご注意

- テレビ後面からネジ4本をはずし、子供がさわらないように安全な場所に保管してください。
- スタンドをはずす前に、ボトムカバーとターミナルカバーをはずしてください。
- 壁掛けからスタンドに戻す場合は、必ず保管したネジを元の場所に取り付けてください。

その他

テレビ取り付け寸法表

テレビを取り付けたときの画面の中心位置

単位：mm

テレビ型名	テレビ寸法		画面中心寸法	取り付け角度による長さ				
				角度0°		角度20°		
	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ	F	G	H
KDL-60LX900	1,440	906	31	503	121	386	850	521

取り付け寸法は取り付け状態により若干異なることがあります。

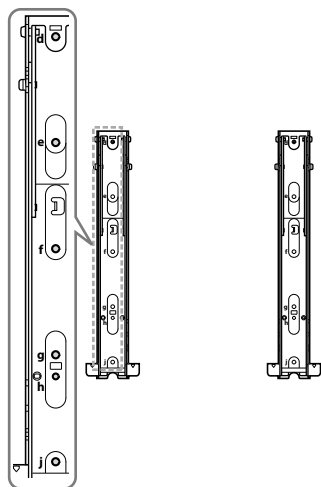
⚠警告

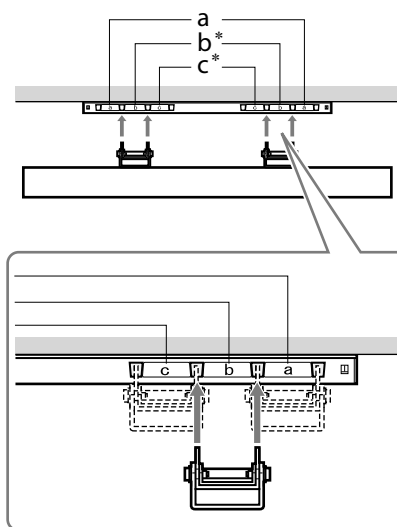
取り付ける壁にはテレビ質量の4倍に耐えられる強度を要します。
テレビの質量は☞29ページをご覧ください。

ネジ・フック位置一覧表

テレビ型名	ネジ位置	フック位置
KDL-60LX900	e、j	a

ネジ位置

マウンティングフックをテレビに取り付ける場合

フック位置

テレビをベースブラケットに取り付ける場合

* 上記のテレビ型名表に記載されている機種では、b、cのフック位置は使用しません。

その他

SU-WL700を使う

取り付け時に本機に付属の部品を使います。

- スペーサー（黒色）（4個）

本機との設置について

別売りアクセサリーの取扱説明書にある設置手順に対応して本機では以下の作業が必要です。本書とあわせてアクセサリーの取扱説明書もご覧ください。設置手順のあとに（ ）付きの数字が表示されている説明では、別売りアクセサリーの取扱説明書で同じ数字のある説明もご覧ください。

1 壁掛けユニットの部品を確認する（1）。

壁掛けユニットの取扱説明書をご覧ください。

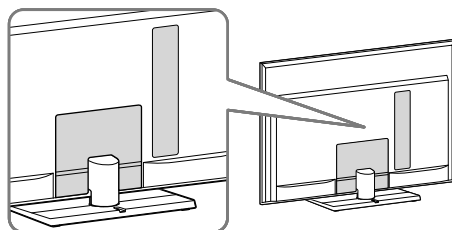
2 取り付け位置を決める（2-1）。

この取扱説明書☞25ページのテレビ取り付け寸法表をご覧になり、取り付け位置を決めてください。テレビの周囲には、壁掛けユニットの取扱説明書で示す寸法の空きが必要です。

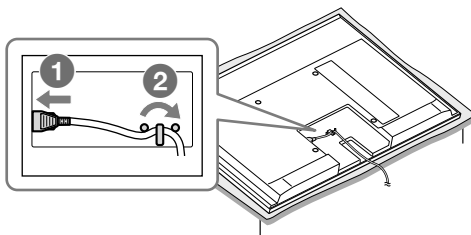
3 ベースブラケットを壁に取り付ける（2-2 ～ 3）。

ネジ穴の位置を確認し、ベースブラケットを壁に取り付けてください。詳しくは、壁掛けユニットの取扱説明書をご覧ください。

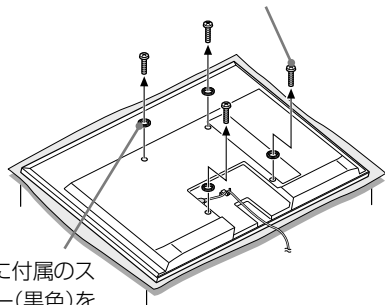
4 必要に応じてスタンドをはずす（4-1）。

- スタンドをはずす前に、ボトムカバーとターミナルカバーをはずしてください。

- スタンドのはずしかたは☞11ページをご覧ください。

5 テレビに付属の電源コードをつなぐ（5-1）。

ご注意

ボトムカバーとターミナルカバーは取り付けないでください。

6 スペーサーを置く。

① テレビ後面からネジ4本をはずし、子供がさわらないように安全な場所に保管する。

② テレビに付属のスペーサー(黒色)を置く。

ご注意

壁掛けからスタンドに戻す場合は、必ず保管したネジを元の場所に取り付けてください。

7 マウンティングブラケットとロックブラケットを取り付ける(4-3 ～ 4-7)。

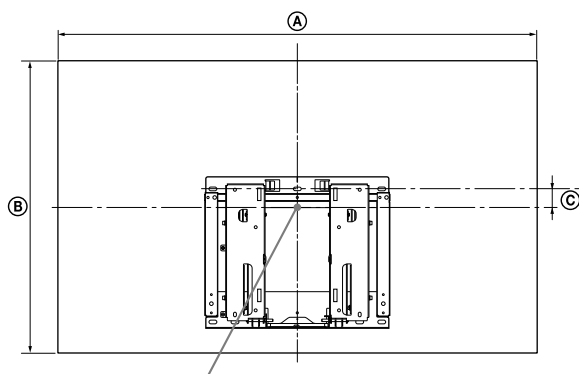
壁掛けユニットの取扱説明書をご覧ください。

8 型紙を準備する(5-2)。

① この取扱説明書のテレビ取り付け寸法表をご覧になり、テレビの幅に合わせた目印を型紙に付ける。

② 壁掛けユニットの取扱説明書をご覧になり、型紙を壁に貼る。

引き続き壁掛けユニットの取扱説明書をご覧になり、テレビを壁に取り付けてください(5-3 ～ 6)。

テレビ取り付け寸法表

⚠警告

取り付ける壁にはテレビ質量の4倍に耐えられる強度を要します。

テレビの質量は☞29ページをご覧ください。

テレビを取り付けたときの画面の中心位置

単位:mm

テレビ型名	テレビ寸法		画面中心寸法	取り付け角度による長さ				
				角度0°		角度20°		
	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ	F	G	H
KDL-52LX900	1,261	804	13	434	75	390	753	495
KDL-46LX900	1,127	727	52	434	75	364	681	495
KDL-40LX900	994	652	89	434	75	338	610	495

取り付け寸法は取り付け状態により若干異なることがあります。

フロアスタンドを使う

取り付け時に本機に付属の部品を使います。

- スペーサー（銀色）（4個）

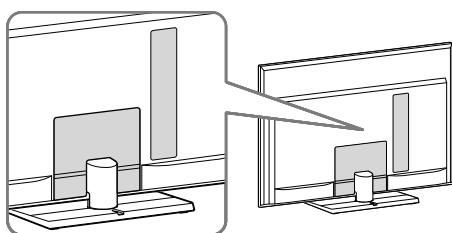
- マウンティングフック/フロアスタンド取付用ネジ（M6×20mm）（4本）

本機との設置について

別売りアクセサリーの取扱説明書にある設置手順に対応して本機では以下の作業が必要です。本書とあわせてアクセサリーの取扱説明書もご覧ください。

はじめにフロアスタンドに付属の取扱説明書の「1 フロアスタンドを組み立てる」をご覧になり、フロアスタンドを組み立ててください。
組み立て後、「2 テレビの取り付け準備をする」のかわりに、次の手順を行ってください。

1 必要に応じてテレビに付属のスタンドをはずす。

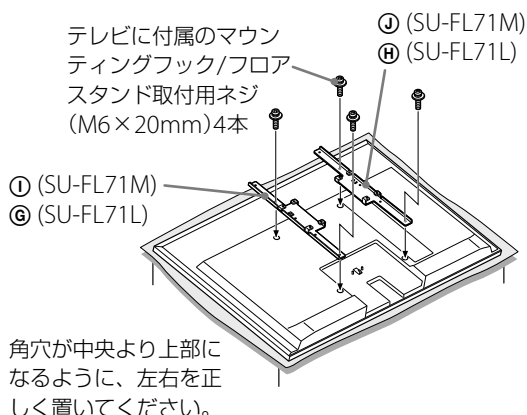
- スタンドをはずす前に、ボトムカバーとターミナルカバーをはずしてください。

- スタンドのはずしかたは☞11ページをご覧ください。

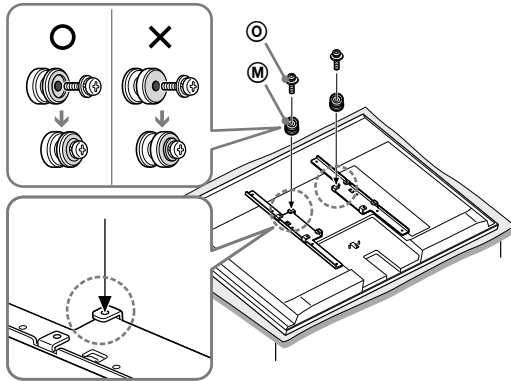
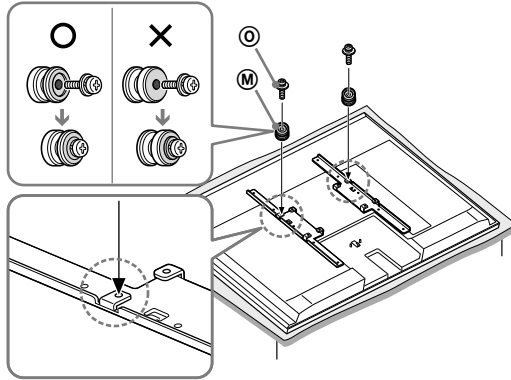
2 スペーサーを置く。

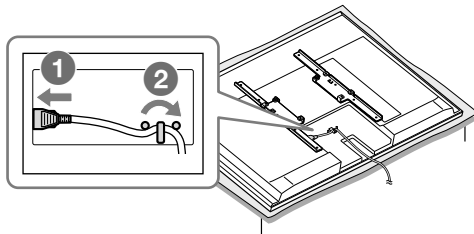
ご注意

テレビに付属のスタンドに戻す場合は、必ず保管したネジを元の場所に取り付けてください。

3 ブラケットⒾⒿ（SU-FL71M）またはブラケットⒼⒽ（SU-FL71L）をテレビに取り付ける。

① 手順2ではずしたネジ穴に合わせてブラケットを置く。
② テレビに付属のマウンティングフック/フロアスタンド取付用ネジ（M6×20mm）4本で固定する。

4 フック Ⓜ をブラケットに取り付ける。

SU-FL71M

SU-FL71L

5 テレビに付属の電源コードをつなぐ。

ご注意

ボトムカバーとターミナルカバーは取り付けないでください。

引き続きフロアスタンドの取扱説明書をご覧になり、テレビをフロアスタンドに取り付けてください（3 ～ 5）。

主な仕様

	項目	仕様
システム	受信方式	NTSC方式、地上デジタル放送方式、BSデジタル放送方式、110度CSデジタル放送方式
	受信チャンネル	地上アナログ：VHF 1 ～ 12チャンネル、UHF 13 ～ 62チャンネル CATV（ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要）：C13 ～ C63 地上デジタル･BSデジタル･110度CSデジタル（テレビ･ラジオ･独立データ）の各チャンネル
	BSデジタル･110度CSデジタル対応周波数	1022 ～ 2072MHz
	BSデジタル･110度CSデジタル対応ローカル周波数	10.678GHz
	使用スピーカー	フルレンジ 3.4×10cm角型（2）
	音声出力（実用最大出力）	10W+10W
入出力端子	アンテナ端子	VHF/UHF、BS/110度CS IF 75Ω F型コネクター（コンバーター用電源出力、DC15/11V最大4W、芯線側＋、オート/入/切、メニュー切り換え）
	ビデオ1、2入力端子	映像：ピンジャック 音声：ピンジャック、2チャンネル
	コンポーネント入力端子	D5映像：D端子 音声：ピンジャック、2チャンネル、ビデオ2入力の音声入力端子を兼用
	HDMI1 ～ 4入力端子	映像：デジタルRGB/Y C_B（P_B） C_R（P_R） 音声：PCM（32kHz、44.1kHz、48kHz）、ドルビーデジタル、MPEG2 AAC（デジタル放送） （アナログ）音声（HDMI2入力のみ）：PC音声入力端子を兼用
	音声出力（可変/固定）端子	2ch出力、ピンジャック
	ヘッドホン端子	ステレオミニジャック
	光デジタル音声出力端子	角型端子、PCM（32kHz、44.1kHz、48kHz）、ドルビーデジタル、MPEG2 AAC（デジタル放送）
	LAN（10/100）端子	10BASE-T/100BASE-TXコネクター（ネットワークの使用環境により、接続速度に差が生じることがあります。本機は10BASE-T/100BASE-TXの通信速度や通信品質を保証するものではありません。） ※LAN接続には、「カテゴリー 7」と記載された10BASE-T/100BASE-TXのLANケーブル（別売り）を使用してください。
	PC入力端子	RGB映像：Mini D-Sub15ピン 音声：ステレオミニジャック
	USB端子	Hi-Speed USB

電源部、その他					
	使用温度	0℃～40℃			
	消費電力	60LX900：233W	52LX900：190W	46LX900：178W	40LX900：150W
	消費電力(待機時)	0.17W(リモコン待機時　ただし、データ取得時を除く)、20W(高速起動｢入｣時)			
	年間消費電力量 (スタンダード時)	60LX900：230kWh/年	52LX900：190kWh/年	46LX900：178kWh/年	40LX900：153kWh/年
	区分名	DH(FHD、液晶4倍速、付加機能なし)			
	受信機型サイズ	60LX900：60V	52LX900：52V	46LX900：46V	40LX900：40V
	パネル解像度	1920×1080×3(RGB)(ドット：水平×垂直)			
	有効画面サイズ (幅･高さ･対角)	60LX900：132.9･74.8･152.5cm		52LX900：115.2･64.8･132.2cm	
		46LX900：101.8･57.3･116.8cm		40LX900：88.6･49.8･101.6cm	
	視野角(左右/上下)	178/178度(JEITA規格準拠コントラスト比10:1)			
	最大外形寸法 (最大突起部分を除く) (幅×高さ×奥行き)	60LX900：144.0×90.6×6.4cm、144.0×93.8×38.0cm(スタンド含む)			
		52LX900：126.1×80.4×6.4cm、126.1×83.8×40.0cm(スタンド含む)			
		46LX900：112.7×72.7×6.4cm、112.7×76.1×32.0cm(スタンド含む)			
		40LX900：99.4×65.2×6.4cm、99.4×68.6×29.0cm(スタンド含む)			
	質量	60LX900：42.8kg 49.8kg(スタンド含む)	52LX900：30.2kg 36.2kg(スタンド含む)	46LX900：24.6kg 28.4kg(スタンド含む)	40LX900：20.3kg 23.7kg(スタンド含む)
	電源	AC100V、50/60Hz			
	3Dメガネ	質量：77g(電池含む) 電池の種類：CR2032/3V 電池寿命：最大100時間 使用パターン(時間･間隔)、環境温度および電池ブランドによって異なります。 外形寸法(幅×高さ×奥行き)：179×40×183mm			

- 受信機型サイズ(40Vなど)は、有効画面の対角寸法を基準とした大きさの目安です。
- このテレビは日本国内用です。電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

区分名と年間消費電力量について

- 区分名
  ｢エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)｣では、テレビに使用される画素数、表示素子、動画表示及び付加機能の有無等に基づいた区分を行なっています。その区分名称を言います。
- 年間消費電力量
  省エネ法に基づいて、一般家庭での1日の平均視聴時間(4.5時間)を基準に算出した、1年間に使用する電力量です。

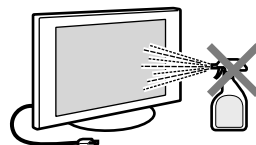
- 「JIS C 61000-3-2適合品」です。
  JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性-第3-2部:限度値-高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
  Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- “XMB”、および“クロスメディアバー”は、ソニー株式会社および株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。
- “FACE DETECTION”のロゴはソニー株式会社の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。
- DLNA®, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIED® are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance.
- AdobeはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- 「アクトビラ」マーク、および「ａｃＴＶｉｌａ」、「アクトビラ」は、株式会社アクトビラの商標または登録商標です。
- 「おサイフケータイ」は株式会社NTTドコモの登録商標です。
- FeliCa(フェリカ)はソニー株式会社の登録商標です。
- 「POCKETCHANNEL」、「ポケットチャンネル」はソニー株式会社の登録商標です。
- 「Edy(エディ)」は、ビットワレット株式会社が管理するプリペイド型電子マネーサービスのブランドです。
- 「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

シミュレーテッド3D機能について

- 当機能を使うと、本機側での映像変換により、オリジナルの映像と見えかたに差が出ます。この点にご留意のうえ、当機能をお使いください。
- 本機を営利目的、または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテルなどで、当機能を利用して2D映像を3D変換して表示すると、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがあります。

長くお使いいただくためのお手入れ方法

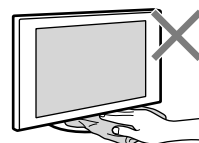
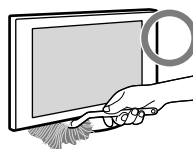
液晶画面には、反射による映り込みを抑えたり、映像を見やすくしたりするために、特殊な表面処理を施しています。
誤ったお手入れをした場合、テレビを傷つける原因にもなりますので、次のことを必ずお守りください。

液晶画面、外装のお手入れについて

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 液晶の画面は特殊加工がされていますので、なるべく画面に触れないようにしてください。
- 本機に直接水や洗剤をかけないでください。吹きかけた水や洗剤が画面下部や外装部にたれて本機が故障する場合があります。

中性洗剤を水で薄める。
固く絞る。

- 画面や外装の汚れをふき取るときは、めがね拭きなどの乾いた柔らかい布でそっとふき取ってください。
- 万一、油性マジックなどが付着してしまった場合は、水で薄めた中性洗剤などに布を浸して固く絞ってふき取り、最後に乾いた布で軽くふいてください(強くこすると、液晶表面に傷がつきます)。
- クレンザーのような研磨剤が入った洗剤は使わないでください。
- ふき取るときの圧力で、液晶配列が崩れて、汚れのように見えることがあります。これは、電源を入れ直すと元に戻ります。
- 印刷面は乾いた柔らかい布で丁寧にふいてください。爪などでひっかくと、印刷面が傷つくことがあります。

揮発性のもの(殺虫剤、シンナー、ベンジンなど)は使用しないでください。

- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、シンナーやベンジンなどは使ったりしないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

- テレビとスタンド(テーブルトップスタンド)部の間は狭いので、手を挟むことがあります。
  柄つきのモップなどを使用することをおすすめします。
- ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 市販の化学ぞうきんやクリーニングクロスなどを使うときは、その販売会社に確認してください。
- 市販の液晶パネル用保護フィルターなどは使わないでください。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げの店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
  ただし、液晶パネルは2年間です。
- 本機のメモリーに保存されたデータは、保証の対象外です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「困ったときは」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合が悪いときはソニーご相談窓口へ

- 裏表紙にあるソニーご相談窓口へお問い合わせください。
- BSデジタル、110度CSデジタルの放送局との受信契約や番組に関しては、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターや衛星サービス会社、B-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）にお問い合わせください。
- デジタル放送全般については（社）デジタル放送推進協会（Dpa）のホームページをご覧ください。
  http://www.dpa.or.jp
- 地上デジタルの受信相談については、総務省地上デジタルテレビジョン放送受信相談センターにお問い合わせください。
  電話番号0570-07-0101
  （平日 9:00 ～ 21:00、土・日・祝日 9:00 ～ 18:00）

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは、保証書をご覧ください。
何らかの原因でコンテンツが外部メディアや外部記録機器（"メモリースティック"、デジタルレコーディングハードディスクドライブなど）に記録できなかった場合や、外部メディア・外部記録機器に記録されたコンテンツが破損または消去された場合など、いかなる場合においてもコンテンツの補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとでも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、ソニーご相談窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名： KDL-60LX900　KDL-52LX900
KDL-46LX900　KDL-40LX900

故障の状態：できるだけ詳しく

購入年月日：

本機のシリアルナンバーおよび定格は、本機後面のボトムカバーをはずした位置に記載されています。

お買い上げ店
TEL.

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

「接続ガイド」ホームページ

本機の接続などに関する情報を、以下のホームページでも確認できます。

http://www.sony.jp/support/connect/guide/index.html

「Q&A」ホームページ

お客様からよくあるお問い合わせと解決法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。

http://www.sony.co.jp/faq/bravia/

本機を壁にかけて使用する場合の設置方法はこの取扱説明書に記載されています。別冊の取扱説明書「本機を壁にかけて使う」は付属していません。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル ・・・・・・・・・・0120-333-020	フリーダイヤル ・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話 ・・・・・・・・・・0466-31-2511	携帯電話・PHS・一部のIP電話 ・・・・・・・・・・・0466-31-2531
	※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に

「200」+「#」

を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1